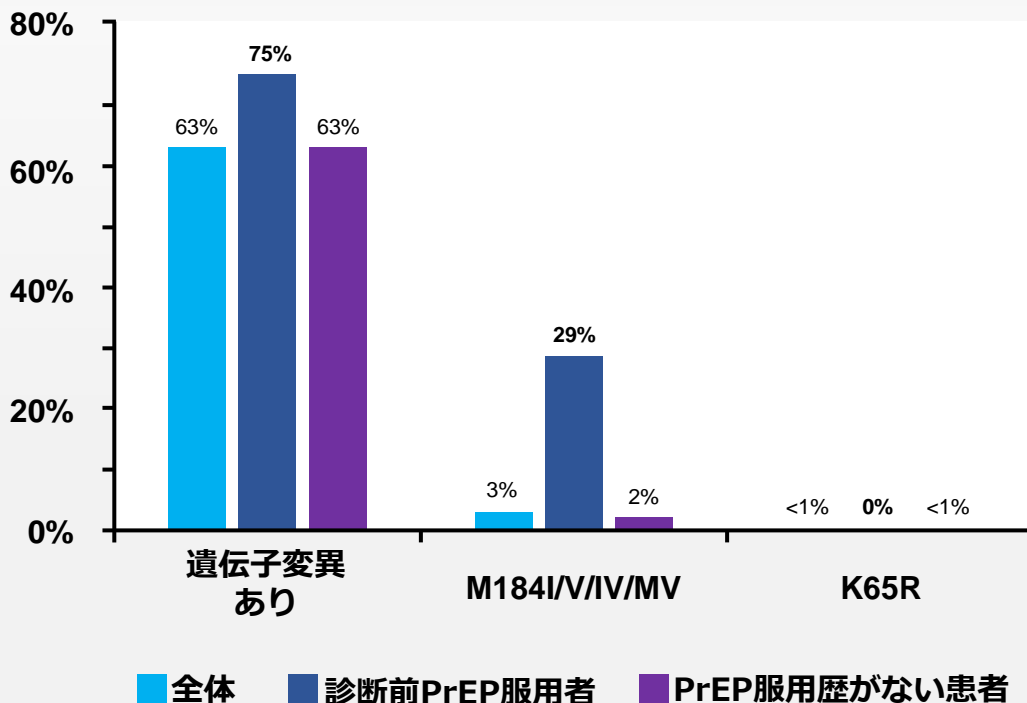


最近PrEPを服用し、HIVに感染した患者に対する診断時のルーチンの薬剤耐性検査の重要性

診断前のPrEP（曝露前感染予防薬）服用歴がある患者とPrEP服用歴がない患者に対する遺伝子型検査で認められるエムトリシタビン（FTC）およびTDF耐性に関連する遺伝子変異の比較



- HIV感染症診断前のPrEP服用期間の中央値は3.4カ月、PrEP開始からHIV感染症診断までの期間の中央値は8.1カ月であった。
- 診断前のPrEP服用者は、白人、30歳未満、シスジェンダーの男性および男性間性交渉者（MSM）の割合が高かった。
- 両群の大半で遺伝子型検査の結果が入手可能であった。
- M184変異が検出されたのは、診断前PrEP服用者群で29%であったのに対し、PrEP服用歴がない患者群では2%であった。
- TDF耐性に関連するK65R変異が4例で認められたが、4例ともPrEP服用者ではなかった。